PTA本部役員の活動内容紹介(会長)

1. PTA会長の活動内容

会長は、PTAを代表し、会務を総理します(規約第 16 条)。

(1)校内の活動(主要なもの)

随時、校長・副校長と連絡を取り、学校生活や行事面でPTAがサポートできる内容や機会を調整します。常任委員会(7・9・1・3月)に出席し会長の活動報告をします。自転車安全講習会に出席(5月)します。PTA総会(6月)の準備・運営を行います。サークル代表者会議を運営します(6月・3月)。学校行事の運営サポートを行います(体育祭・合唱祭等)。学校評議員会に出席します(7月・10月)。校内美化活動に参加し学校をサポートします(8月)。新成人を祝う会の運営を行います(1月)。入学式・卒業式は感染対策で参列していません。校内のPTA諸活動に関しては、副会長をはじめとする本部役員がそれぞれ担ってくださいます。会長の主な活動は、進行管理と決断、資料の確認等がメインです。

(2)校外の活動

PTAの代表として、調布市公立学校PTA連合会(調布市内の公立小学校20校、公立中学校8校のPTAの連合体)の会議(理事会・ブロック会議)や行事(進学フェア等)、他校の行事(入学式、卒業式等)に出席します。

(3)地域関係の活動

PTAは、学校と地域とをつなぐ架け橋でもあります。三校会(上ノ原小、晃華学園、神代中、北部公民館、上ノ原まちづくりの会等)に年5回程度出席し、地域の安全・まちづくりに対する情報共有を行っています。また、各小学校区の健全育成推進地区委員会をはじめとする地域の皆様が主催する行事・活動等にPTAを代表して参加し、地域の皆様と交流を深めることは、会長の重要な活動です。

2. PTA会長を引き受けた理由

前任の加藤会長から、後任が見つからずお困りのご様子で打診がありました。お話を聞いていくうちに、加藤会長の思いに共感し、私も神代中学校の卒業生のひとりですので、何となく母校を支える順番が回ってきたことを悟り、決断いたしました。コロナ禍だからこそ、学校を温かい気持ちでサポートしていくことができるPTAを目指して運営し、会長のタスキをつないでいきたいと思えます。

3. PTA会長を引き受けた感想

PTAの業務内容を理解し、実際に運営して、最も感じたことは、PTAが変革期にあるということです。本校に限らず、社会状況の変化とコロナ化でこれまでの仕組みが立ち行かないPTAが続出しています。組織の存在意義に立ちかえり、生徒と学校のために意味のある活動を選択して、運営の効率化を図る必要があります。

一方で、コロナ禍で学校に立ち入れない期間が長く続き、学校と保護者の関係がどうしても疎遠になっている現状があります。保護者と先生方がお話しできる機会は保護者会か面談等に限られており、学年ごとの教育方針や日々のご苦勞などについて先生方から直接お伺いできる機会はなかなかありません。そして、家庭内では、思春期という発達段階の特徴から、親子のコミュニケーションが不足しがちな時期であり、学校の様子がわからずに不安を抱えているという話も耳に入ってきています。

このような社会背景において、PTAができることを改めて考え、学校と保護者が協力して、生徒が安心して学習し、成長できる環境を整えるお手伝いをしていきたいと考えています。会長に就任する前よりも、今の方が、学校と生徒に近い距離間でこのようなことを考え、行動できています。